

Ⅸ 人間社会学部

学部長からのメッセージ

今日、日本は、少子化、高齢化、人口減少、都市への人口集中、地域経済・コミュニティの衰退、グローバル化といった大きな変化と、女性の社会進出、ワークライフバランスの見直しといった私たちの生き方・働き方の変化にも直面しています。このため、このような変化に対応しつつ、新しい人間らしい社会・経済のあり方を構築していくことが急務となっています。

一人ひとりの健康づくり、マネープラン・ライフプランなどを支える知識と能力を、地域や社会を、観光、金融、行政、まちづくりなどで元気にする知識と能力を、社会の支え合いである福祉を、簿記やマネジメント、まちづくりといった観点からも作りあげる知識と能力を、社会は求めています。人間社会学部は、多様性が尊重される社会を目指しながら、一人ひとりに寄り添ってグローバル社会や地域社会の課題を解決しようとする高い使命感を持ち、企業・団体に入ってソーシャル・ビジネスを提案・実践し、社会課題解決のための新しい価値を創造できる人財を育みます。

そのため、人間社会学部は、以下のような学びを大切にしています。

- ①「社会学・社会福祉学・心理学」と「経済学・商学・経営学」を幅広く、バランスよく学びます。
- ②多様な履修モデルを参考にして、将来の希望に合わせた履修計画を立てて、基礎から専門まで学びます。
- ③活動・交流・現場から実践的に学ぶアクティブ・ラーニングを重視します。
- ④専門家として活躍するためにも、資格取得を重視します。
- ⑤大学での学び・活動から、自分がいかに成長したかを実感するために「CUC 3つの力」と「CUC 6つの能力要素」を活用します。

「履修ガイド」を参考にしながら、人間社会学部での学びを充実させてください。みなさんにとって、大学4年間は、小学・中学・高校と続く学びの集大成であると同時に、社会に出る前の準備でもあります。多くのことを学び、経験して、「人にやさしく、お互いを大切にする社会」をつくりあげていく力を身につけてください。

私たち教職員は、みなさんの学び、成長を全力でサポートします。

人間社会学部長 鎌田光宣

人間社会学部

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

人間社会学部では、ビジネスの手法で、地域や社会の課題に取り組み、これからの社会を支える幅広い能力をもった職業人を養成する。人間社会学部の卒業要件を満たし、教育課程を修めた学生に対し「学士（人間社会学）」の学位を授与する。

高い倫理観

- ◆地域社会及び産業界と交流することで、社会の仕組み・課題・可能性、ビジネスの仕組み・課題・可能性を理解し、ビジネスによって社会の課題を解決しようとする高い使命感
- 「人間社会基礎科目群」「人間社会実践科目群」の卒業要件単位の修得により評価する。

幅広い教養

- ◆専門知識を活かすための基礎的な知識・学力を持ち、常に学び、成長し続けるという向上心を育成するために「学ぶ力」「活動する力」「自分を高める力」を身につけたうえで、地域社会及び産業界の発展に貢献するための力
- 「人間社会基礎科目群」「人間社会実践科目群」の卒業要件単位の修得により評価する。

専門的な知識・技能

- ◆社会の仕組み・課題・可能性を「社会学・社会福祉学」を通して学び、またビジネスの仕組み・課題・可能性を「経済学・商学・経営学」を通して学び、これらの専門知識を活かし地域社会及び産業界の発展に貢献できる力
- 「人間社会専門科目群」「研究科目群」の卒業要件単位の修得により評価する。

上記の力を身につけるためのカリキュラムを編成・実施し、所定の単位の修得により学修成果を評価する。単位修得状況が一定の水準に満たない学生に対しては、面談等の実施により学修成果の把握・改善を行う。人間社会学部では、ディプロマ・ポリシーを教育の質保証を図るための起点とし、建学の精神および社会の要請に基づく教育の不断の改革・改善に努める。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

人間社会学部では、全学部共通カリキュラムであるCUC基盤教育科目群の科目を通じて本学の学生として基盤となる知識の獲得と能力の醸成を行うとともに、ビジネスの手法で、地域や社会の課題に取り組み、これからの人間社会を支える幅広い能力をもった職業人を養成するため、以下のカリキュラムを体系的に編成し実施する。カリキュラムでは、アクティブ・ラーニングを重視し、社会の現場での実践力の育成を重視する。また、『人間社会学部6つの力』を設定し、常に学び、成長し続けるという向上心を育成する。

『人間社会学部6つの力』とは、「学ぶ力」として「社会の仕組み・課題・可能性を学ぶ力」、「ビジネスの仕組み・課題・可能性を学ぶ力」、「活動する力」として「学んだことを活動・経験に活かす力」、「交流し、協力する力・コミュニケーション能力」、「自分を高める力」として「自分のキャリアをデザインする力」、「自分のキャリアを高める力」をさす。

初年次教育

高校の学習から大学の学修へと円滑に移行し、自らの将来に向けて学修計画を立てられることを目的としており、修得後は、主体的な学びが実践出来るようになる。少人数クラスでグループワークなどを通じて、コミュニケーション能力、ディスカッション力、プレゼンテーション力を鍛え、2年次以降に必要な専門知識の基礎も学んでいく。

専門教育

社会の仕組みを知り、課題を発見するために「社会学・社会福祉学」を学び、その社会課題を、ビジネスの側面から解決する手段として「経済学・商学・経営学」を学ぶ。2年次からは「観光」「金融」「医療福祉」「流通」等の様々な業種への就職につなげるために、専門的な内容を深く掘り下げて学び、専門知識を活かし地域社会及び産業界の発展に貢献できる力が身につくようにカリキュラムを編成している。また、専門教育の中に「ビジネスマネジメントⅠ・Ⅱ」といったキャリアを形成する上で必要な知識と実践力を学び、早期から自らの将来に向けて考え、社会人として必要な基礎力を養うカリキュラムを編成している。

ゼミナール教育

「研究基礎A」から「研究ⅢB」及び「卒業研究A・B」のすべてを必修科目として、少人数クラスで双方向のコミュニケーションをとりながら専門知識を学ぶ。2年次には資格取得やアクティブ・ラーニングを目的とした授業内容を展開し、学生自らが主体的に学び、実践するカリキュラムとなっている。また、3年次以降は少人数クラスで専門の研究分野を深める内容となっており、グループワークを行いながら、コミュニケーション能力、ディスカッション力、プレゼンテーション力が身につくようにカリキュラムを編成している。また、「卒業研究A・B」では、研究成果を卒業論文としてまとめ、人間社会学部での学びの集大成となるよう指導を行う。

人間社会学部では、各科目で身につく知識・技能等をシラバスに記載し、シラバスに記載された評価方法・基準により学修成果を評価するとともに、科目間の関係性を可視化し、学生が体系的に履修・学修を行えるようにする。

学生の能動的な学修の充実に向け、履修科目の登録上限の設定による1科目あたりの学修時間の増加を図り、単位修得状況が一定の水準に満たない学生に対しては、面談等の実施により学修成果の把握・改善を行う。

I 教育課程

(1) 科目の区分

人間社会学部 2022 年度入学生の科目区分は、「CUC 基盤教育科目群」、「人間社会基礎科目群」、「人間社会実践科目群」、「人間社会専門科目群」、「研究科目群」に大別されます。これらの科目区分をバランスよく学ぶことにより、「やさしさのプロ」として社会で活躍するための力を養います。

(2) 科目の概要

【CUC 基盤教育科目群】

詳細は、V. 基盤教育機構のページを参照してください。

【人間社会基礎科目群】

人間社会学部のカリキュラムの基本になる科目で、1 年次に 6 科目 12 単位が必修配当されています。修得できなかったときは、次の学期、または次の年度に修得してください。これらの科目をベースに実践科目、専門科目、研究科目へと繋がっていきます。

【人間社会実践科目群】

選択必修で 2 単位以上修得しなければなりません。人間社会学部の特徴であるアクティブ・ラーニングを含んだ科目です。アクティブ・ラーニングとは、発見学習、問題解決型学習、体験学習、調査学習等を取り入れた学習方法で、いずれの科目も講義だけでなく、実践を通して社会的能力、知識、教養を含めた汎用的能力を培います。

【人間社会専門科目群】

ソーシャル科目である社会学・社会福祉学と、ビジネス科目である経済学・商学・経営学に分かれており、主に 2 年次から履修することになります。1 年次に学んだ基礎をもとに、さまざまなテーマの専門科目を選択することができます。ソーシャル科目から選択必修科目 4 単位を含め 20 単位以上を、またビジネス科目から必修科目 4 単位及び選択必修科目 4 単位を含め 16 単位以上を修得しなければなりません。各科目の必修・選択必修科目については、次ページの表を参照してください。

【研究科目群】

1 年次に「研究基礎 A・B」、2 年次に「研究Ⅱ A・B」、3 年次に「研究Ⅲ A・B」、4 年次に「卒業研究 A・B」が配当されています。全て各学年の必修科目で、合計 16 単位修得することが卒業要件となっています。また、それぞれの担当教員がアドバイザーとしてみなさんの相談相手となり、広範囲にわたる授業科目の中から、将来の進路や関心に応じて履修科目のアドバイスをを行います。

2 年次以降に開講される研究科目は、少人数授業で行います。2 年次に開講される「研究Ⅱ

A・B」は、春学期は2分野、秋学期は5分野の中から、自分の研究したい学問分野を選択し履修します。3、4年次開講の「研究ⅢA」から「卒業研究B」は、さらに研究を深めたい分野の教員が担当するゼミナールを履修し、2年間同一のゼミナールに所属します。

ゼミナールでは教員の指導のもと、学生同士で議論しあいながら知識を深めて、問題発見・解決の方法を学びます。また、専門科目、CUC基盤教育科目等で学んだ知識を十分に活用し、教員や学生とのコミュニケーションを通じて研究のテーマを掘り下げ、4年次には卒業論文を完成させます。したがって、よりよい研究をするためには着実に段階を追って単位修得することが求められます。

(3) 科目の種別

授業科目には、必修科目、選択必修科目及び選択科目があります。人間社会学部では、実践科目群や専門科目群のソーシャル科目・ビジネス科目に選択必修科目を配当しています。卒業に必要な単位数を確認して履修してください。

【選択必修科目】

| 科目区分 | | 単位 | 科目名 | |
|----------------|---------|---------------|--------------|-------------|
| 実践科目群 人間社会学 | 実践科目 | 選択必修 2単位以上 | フィールドワーク | まちおこし実践 |
| | | | ボランティア実践 | ソーシャル・デザイン |
| 専門科目群 人間社会学 | ソーシャル科目 | 選択必修 4単位以上 | 家族とジェンダーの社会学 | 都市と地域の社会学 |
| | | | 福祉行財政と福祉計画 | 相談援助の基盤と専門職 |
| | ビジネス科目 | 選択必修 4単位以上 | 金融リテラシー | ソーシャル・ビジネス論 |
| | | | 観光ビジネス論 | 地方創生論 |

(4) 授業科目配当表

原則として、履修できる科目は授業科目配当表に記載のある科目のみです（自由科目、特別講義を除く）。授業科目配当表に記載のない科目の単位修得をしても卒業要件には含まれません。入学年度ごとにカリキュラムが異なりますので、履修登録の際には注意してください。詳しくは、授業科目配当表を確認してください。

(5) 資格取得単位認定

下表の認定科目は、該当資格を取得し、大学に申請することで単位を認定することができます。申請期間等の詳細については、告示を参照してください。

| 資格名称 | 認定科目 | 申請可能学年 |
|-----------|-------|--------|
| ITパスポート試験 | ICT基礎 | 1年次～ |

2 履修登録

履修登録については、【Ⅱ 大学における学修】「8.履修」の項を確認のうえ、各自行ってください。なお、学部により履修制度が異なりますので、以下の注意事項を確認のうえ、不明点があれば、教務課へ相談してください。

(1) 事前履修登録科目

事前履修登録科目とは、学期指定の必修科目を指し、教務課によって履修登録を行います。CUC PORTAL 上の時間割表に自動で登録されるので、自身で履修登録を行う必要はありません。なお、対象科目は以下の通りです。ただし、事前履修登録科目の単位を修得することができず再履修をする場合は、研究科目群の科目を除き、自身で履修登録を行う必要がありますので、注意してください。

再履修については【Ⅱ 大学における学修】25 ページを参照してください。

| 科目区分 | 科目名 |
|-------------|--|
| CUC 基盤教育科目群 | 情報入門 |
| 人間社会基礎科目群 | 人間社会入門、社会学入門、社会福祉総論、現代社会論 経済学入門、会計学入門 |
| 人間社会専門科目群 | 初級簿記 I、ビジネスマネジメント I |
| 研究科目群 | 研究基礎 A・B、研究Ⅱ A・B、研究Ⅲ A・B、卒業研究 A・B |

(2) 履修クラスに指定のある科目

研究科目、必修科目においては受講クラスが指定となる科目があります。ガイダンス等で自身の履修クラスを確認してください。なお、対象科目は事前履修科目と同じです。

(3) 履修にあたり条件がある科目

以下の科目の履修にあたっては条件があります。ステップアップ科目については、次学期以降の履修登録に影響が出ますので、計画的に履修登録を行ってください。

| ステップアップ科目 | 条件 |
|------------------|---------------------------------------|
| パーソナルファイナンス I | 「金融リテラシー」単位修得者のみ履修可能 |
| パーソナルファイナンス II | |
| ファイナンシャル・プランニング論 | |
| 中級簿記 II | 「中級簿記 I」単位修得者のみ履修可能 |
| 研究 IIIA・IIIB | 「研究基礎 A・B」すべての単位修得者のみ履修可能 |
| 卒業研究 A・B | 「研究基礎 A・B」「研究 IIA・IIB」すべての単位修得者のみ履修可能 |

| 履修に制限がある科目 | 条件 |
|---------------|-------------------------|
| ICT 基礎 | 「情報入門」を受講したことがある者のみ履修可能 |
| Web 基礎 | |
| 日本語読解 I ～ III | 留学生のみ履修可能 |
| 日本語聴解 I ～ III | |

(4) 履修上限外科目

各学期の履修上限単位数は原則 22 単位と定められていますが、指定した科目に限り、履修上限を超えて履修をすることが認められます。科目配当されている科目中の対象科目は以下の通りです。ただし、全学部、所属学部を対象とした特別講義など、履修上限外科目は年度により追加、変更となる可能性があります。

- ア. 単位互換科目
- イ. 自由科目
- ウ. 「海外短期文化研修 I ・ II」
- エ. 「海外長期文化研修」

(5) その他

ア. 履修上限単位数について

1 セメスターに履修できる単位の上限は 22 単位です。ただし、前学期の GPA が 3.0 以上の場合、当該学期の上限は 26 単位となります。

イ. 「体育学実習」「基礎体育学実習」の履修について

「体育学実習」および「基礎体育学実習」は、CUC 基盤教育科目群の選択科目で、1 単位の科目となります。

なお、「体育学実習」は種目名が異なっても、複数回履修することはできません。また、「体育学実習」と「基礎体育学実習」を同学期に履修することはできませんので、注意してください。

ウ. 授業出席の厳格化について

1 年生の必修科目及び研究科目群（卒業研究は除く）は、教育的観点により授業の出席確認を厳格に行います。5 回以上の欠席で単位を修得することはできません。なお、「研究科目群」については授業開始 10 分後の入室は遅刻扱いとなります。遅刻は 3 回で欠席 1 回分として計算されますので注意してください。なお、出席状況の照会は行いません。

エ. ゼミナール科目（「研究Ⅱ A ・ B」、「研究Ⅲ A ・ B」、「卒業研究 A ・ B」）の履修について

「研究Ⅱ A ・ B」（2 年次配当）の履修登録については、1 年次秋学期にガイダンスを実施し、登録を行います。

また、「研究Ⅲ A」（3 年次配当）の履修登録については、2 年次秋学期にガイダンスを実施し、登録を行います。次学期以降の「研究Ⅲ B」、「卒業研究 A ・ B」は、学年進行にあわせて自動的に同一指導教員の研究科目が事前履修登録されます。

なお、分野・教員の選択、応募方法については告示等でお知らせしますので、必ず確認してください。

3 学部の特徴ある教育

(1) 学部の教育

ア. 求める学生像

人間社会学部が求める学生像は次のとおりです。

- ◆人間社会学部の教育理念に共感し、地域社会及び産業界の発展に貢献する意欲を持つ学生
- ◆アクティブ・ラーニングを通じて積極的に地域社会及び産業界と交流する意欲を持つ学生
- ◆教室での学びと実社会での学びを活かして、新しいことにチャレンジする意欲を持つ学生
- ◆専門知識を活かすための基礎的な知識・学力を持ち、常に学び、成長し続けるという向上心を持つ学生
- ◆コミュニケーション能力を高め、学生と教員と一緒に活動し、目標の実現に向けて協働する意欲を持つ学生

イ. 学部の学び

人間社会学部は、少子高齢化、人口減少、地方の衰退、グローバル化等の社会問題の解決に貢献する人材を育成するために、2014年に設置されました。社会学や社会福祉学の視点で社会の実態と課題を学び、経済学・商学・経営学も学んで、「人にやさしい社会をビジネスでつくる」能力を身につけます。自治体、地域と連携した実践的な学びと活動によって、実践力を習得することができます。

ウ. アクティブ・ラーニング

人間社会学部では、社会とビジネスについて学ぶ専門科目と、アクティブ・ラーニング (AL) という体験型の授業や正課外のプロジェクトを通して、教室で学んだことを社会の中で実践し、体験の中で得た気づきを教室で検証します。その相乗効果で成長を実感し、社会で求められている「考え、行動、協力する力」を養います。以下は一例になります。

| ALの種類 | 科目・プログラム名 | 説明 |
|----------------------------|-------------------------|--|
| 授業でのAL (単位が付与される) | 「研究基礎A・B」 (1年次ゼミナール) | 企業の事前研究・取材をした上で、冊子の編集、制作などを行います。 |
| | 「人間社会実践科目」 | 科目によって学外フィールドワーク等も含む実践形式の授業です。2年次以降、複数科目から1科目以上を選択します。 |
| 授業外(正課外)のAL (単位は付与されない) | 学生公募型AL | 学年を問わず、自分の興味関心のある活動に参加するものです。 (地域活性化、社会貢献型のプログラム等) |
| | 福祉プログラム | 高齢者や障がい者、保育に関わるプログラムになります。関連施設と連携して、福祉業界で働くことを意識したプログラムです。 |

【全員参加型】

「研究基礎A・B」
(1年次ゼミナール)を通して、情報誌の取材・編集・制作などを行います。

【有志参加型】

学年を問わず、自分の興味や関心のある活動に参加します。

【選択必修型】

2年次以降、自分に合った実践形式の授業から1科目以上を選択します。
→ex.「ボランティア実践」、「ソーシャル・デザイン」など

【専門型】

めざす業界や資格を想定した内容で実施します。
→ex.「医療福祉プログラム」など

(2) 資格取得について

ア. 資格検定試験等支援奨励金給付制度

学部で指定された資格検定試験に合格した学生に対して奨励金の給付制度があります。対象となる資格検定試験と奨励金、申請方法については、告示を確認してください。なお、本奨励金の受給は、各資格検定試験につき1回に限ります。また、これらの資格取得のための講座が学内で開催されますので、希望者は授業内での案内及びガイダンスや告示を確認してください。

注：対象資格や給付条件等は在学中に変更になる可能性があります。

イ. 社会福祉主事任用資格

人間社会学部では、社会福祉主事任用資格に必要な3科目(社会学入門・経済学入門・心理学)を修得すると、卒業と同時に「社会福祉主事」の任用資格が得られます。

ウ. 介護福祉士国家試験受験資格

本学と教育連携協力協定を締結している湖山医療福祉グループ協力の下、国家資格である介護福祉士の合格を目指すことができます。介護福祉士は施設等で3年(1095日)以上の従事期間と、540日以上の従事日数及び介護職員実務者研修を経て受験資格を得ることができます。卒業までに介護福祉士の資格に挑戦したい方は、ぜひ参加してください。

詳細は、ガイダンス等で説明します。

エ. AFP認定研修

人間社会学部は、NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の特別認定教育機関になっています。人間社会学部で開講する「金融リテラシー」「パーソナルファイナンスI」「パーソナルファイナンスII」「ファイナンシャル・プランニング論」を修得し、「提案書」※を作成しAFP認定研修を修了した者は、国家検定である2級ファイナンシャル・プランニング技能士の受験資格を得ることができます。

※実際の一般的な家庭を想定し、収入、支出、住宅ローン等を加味した上で、ファイナンシャル・プランニングに基づいた提案書を作成する課題のこと。

4 授業科目配当表（2022年度入学者対象）

| 科目区分 | 卒業要件 | 授業科目の名称・配当年次等 | | | | |
|---------------------|-----------|---------------|---|--|--|--|
| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 共通教養 CUC 基盤教育科目群 | 人文科学 | 選択必修（8単位以上） | アジアの歴史(2) アメリカの文学と文化(2) イギリスの文学と文化(2) イスラム・アラブ文化論(2) 演劇(2) 音楽史(2) カウンセリング心理学(2) 教育学(2) | 近代日本文学(2) 実学への招待(2) 言語学(2) 現代中国の思想(2) 古典日本文学(2) 社会思想史(2) 宗教学(2) 心理学入門(2) | 性格心理学(2) 世界の文学(2) 哲学(2) 日本史(2) 日本の文化(2) 東アジア文化論(2) 美術史(2) Film Studies(2) | ヨーロッパの歴史(2) 倫理学(2) 歴史学入門(2) 論理学(2) 海外短期文化研修Ⅰ(2) 海外短期文化研修Ⅱ(2) 海外長期文化研修(4) |
| | | 社会科学 | 観光文化論(2) グローバル・アジア論(2) Global Studies(2) 経済と社会(2) 現代社会と宗教(2) 日本国憲法(2) | 国際関係論(2) ジェンダー論(2) 質的調査法(2) 社会学(2) 社会調査法(2) 社会ネットワーク論(2) | 商業と倫理(2) 生活環境論(2) 政治学入門(2) 世界の紛争と平和(2) 地理学と社会(2) 日本現代社会論(2) | 日本政治史(2) 福祉論(2) 文化人類学(2) 法学(2) 民俗学(2) |
| | | 自然科学 | 宇宙科学(2) エネルギー論(2) 化学(2) 科学技術史(2) 数と計算(2) | 環境と倫理(2) 健康科学(2) コーチング論(2) 自然科学入門(2) 自然地理(2) | 情報と倫理(2) 数学(2) スポーツ科学(2) 生物学入門(2) 生物と機能(2) | 生命と倫理(2) 地球科学(2) 地球環境論(2) 統計学入門(2) 物理学(2) |
| | 外国語 | 選択 | 英語(A)Ⅰ(2) 英語(B)Ⅰ(2) 英語(C)Ⅰ(2) 英語(A)Ⅱ(2) 英語(B)Ⅱ(2) 英語(C)Ⅱ(2) 基礎英語Ⅰ(2) 基礎英語Ⅱ(2) スポーツ英語(2) ビジネス英語Ⅰ(2) ビジネス英語Ⅱ(2) ビジネス英語Ⅲ(2) 中級英語Ⅰ(2) 中級英語Ⅱ(2) 中級英語Ⅲ(2) プレゼンテーション英語(2) | 基礎中国語会話Ⅰ(2) 基礎中国語会話Ⅱ(2) 基礎中国語文法Ⅰ(2) 基礎中国語文法Ⅱ(2) 中級中国語Ⅰ(2) 中級中国語Ⅱ(2) 上級中国語Ⅰ(2) 上級中国語Ⅱ(2) 韓国語Ⅰ(2) 韓国語Ⅱ(2) 韓国語Ⅲ(2) 韓国語Ⅳ(2) ドイツ語Ⅰ(2) ドイツ語Ⅱ(2) ドイツ語Ⅲ(2) ドイツ語Ⅳ(2) | フランス語Ⅰ(2) フランス語Ⅱ(2) フランス語Ⅲ(2) フランス語Ⅳ(2) スペイン語Ⅰ(2) スペイン語Ⅱ(2) スペイン語Ⅲ(2) スペイン語Ⅳ(2) 中国語(A)Ⅰ(2) 中国語(B)Ⅰ(2) 中国語(C)Ⅰ(2) 中国語(A)Ⅱ(2) 中国語(B)Ⅱ(2) 中国語(C)Ⅱ(2) | ドイツ語(A)Ⅰ(2) ドイツ語(B)Ⅰ(2) ドイツ語(C)Ⅰ(2) ドイツ語(A)Ⅱ(2) ドイツ語(B)Ⅱ(2) ドイツ語(C)Ⅱ(2) フランス語(A)Ⅰ(2) フランス語(B)Ⅰ(2) フランス語(C)Ⅰ(2) フランス語(A)Ⅱ(2) フランス語(B)Ⅱ(2) フランス語(C)Ⅱ(2) |
| | 情報 | 必修(2単位) 選択 | 情報入門(2) 情報実践(2) | ICT基礎(2) | Web基礎(2) | プログラミング基礎(2) |
| | 簿記 会計 | 選択 | 会計学への扉(2) 簿記特講(4) | 税理実務研究Ⅰ(2) 税理実務研究Ⅱ(2) | 経理実務入門(2) 税務実務入門(2) | |
| | 体育 | 選択 | 基礎体育学実習(1) | 体育学実習Ⅰ(1) | | |
| | キャリア | 選択 | キャリアデザイン(2) 雇用と労働の法律(2) | ビジネス探究(2) ホスピタリティ実践(2) | マナー・ディスカッション(2) 企業研究(2) インターンシップ(2) | 職業・業界研究(2) 就業力実践(2) |
| | 日本語 関連 | 選択 | 文章表現(2) *日本語読解Ⅰ(2) *日本語読解Ⅱ(2) *日本語読解Ⅲ(2) | *日本語聴解Ⅰ(2) *日本語聴解Ⅱ(2) *日本語聴解Ⅲ(2) | | |

※卒業要件は40ページも参照してください

- (注) 1. 海外短期文化研修Ⅰ、Ⅱ、海外長期文化研修は、協定校に語学研修または交換留学した者が履修できる科目とします。
 2. *印の日本語読解Ⅰ～Ⅲ・日本語聴解Ⅰ～Ⅲは留学生のみの配当とします。
 3. 上記科目以外に「特別講義」として開講する科目がありますので、告示に注意してください。
 4. 科目名の後ろの()内の数字は単位数を表しています。

| 科目区分 | 卒業要件 | 授業科目の名称・配当年次等 | | | |
|---|--|--|---|--|--|
| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
| 人間社会基礎科目群 | 必修 (12単位) | 人間社会入門(2) 社会学入門(2) 社会福祉総論(2) 現代社会論(2) 経済学入門(2) 会计学入門(2) | | | |
| 実践科目群 | 選択必修 (2単位以上) | | フィールドワーク(2) まちおこし実践(2) ボランティア実践(2) ソーシャル・デザイン(2) | | |
| 人間社会専門科目群 | 選択必修 (4単位以上) | | 都市と地域の社会学(2) 家族とジェンダーの社会学(2) 福祉行財政と福祉計画(2) 相談援助の基盤と専門職(2) | | |
| | 20単位以上 (選択必修含む) ソーシャル科目 (社会学・社会福祉学) | 選択必修 (4単位以上) | ボランティア論(2) 日本の手話(2) 健康管理・フィットネス(2) | | |
| | | 選択 | 心理学(2) 福祉と医療の社会学(2) 情報とメディアの社会学(2) 社会調査の基礎(2) 社会調査の応用(2) 現代社会と観光(2) 産業と仕事の社会学(2) グローバル社会学(2) | 人間関係論(2) 社会保障論(2) 児童福祉論(2) 障害者福祉論(2) 高齢者に対する支援と介護保険制度(2) 保険医療サービス(2) 医療秘書概論(2) 公的扶助論(2) | 福祉住環境論(2) まちづくり論(2) ライフデザイン論(2) 福祉サービスの組織と経営(2) 就労支援サービス(2) 観光社会学(2) メンタルヘルスの心理学(2) |
| 16単位以上 (必修4単位・選択必修4単位含む) ビジネス科目 (経済学・商学・経営学) | 必修 (4単位) | 初級簿記Ⅰ(2) ビジネスマネジメントⅠ(2) | | | |
| | 選択必修 (4単位以上) | 金融リテラシー(2) | ソーシャル・ビジネス論(2) 観光ビジネス論(2) 地方創生論(2) | | |
| | 選択 | スポーツ・健康ビジネス論(2) 経営学入門(2) 日本の経済と社会(2) 初級簿記Ⅱ(2) | 地方行政論(2) 行政法(2) パーソナルファイナンスⅠ(2) パーソナルファイナンスⅡ(2) ファイナンシャル・プランニング論(2) ソーシャルファイナンス(2) 財務会計論(2) 労働経済学(2) | 地域と中小企業論(2) 起業の理論(2) 組織とリーダーシップ(2) 環境と経済(2) 国際協力論(2) マーケティング入門(2) 消費者行動論(2) | グローバル経済と日本(2) アジアの経済と社会(2) アメリカ・ヨーロッパの経済と社会(2) 中級簿記Ⅰ(2) 中級簿記Ⅱ(2) ビジネスマネジメントⅡ(2) Inbound Tourism(2) |
| 研究科目群 | 必修 (16単位) | 研究基礎A(2) 研究基礎B(2) | | | |
| | | 研究ⅡA(2) 研究ⅡB(2) | | | 研究ⅢA(2) 研究ⅢB(2) |
| | | | | | 卒業研究A(2) 卒業研究B(2) |

